



松野町長 阪本 壽明

謹んで、新年のごあいさつを申し上げます。

皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私が町長に就任して早くも2年がすぎ、3度目の新年を迎えました。

就任した平成21年11月当時、松野町は危機的な財政状況にあり、鬼北町との合併協議の真只中でありました。

就任以来、公約、所信のとおり、住民投票での民意を尊重して主張すべきは主張し、守るべきは守り、譲るべきは譲り、町内をまとめて、悔いなく安心のもてる合併を目指し、誠心誠意取り組んできたつもりです。

さて、昨年を振り返りますと、鬼北町との合併協議会の廃止、副町長の廃止など、大変ご心配をお掛けしました。

重ね重ねにはなりますが、鬼北町との合併につきましては、両町の人権施策の違いが大きく、一致点、妥協点が見出せない中で、苦渋の決断の末、合併特例法の期限であっ

た昨年3月31日をもって合併協議会の廃止に至りました。

合併議論の中では、この他にも幾多の難題、先送りの懸案事項もあり、鬼北町との調整協議の中で、改めて気づき、学び、検証し、対処してきたことも多々あります。

よって、合併協議を進めてきたことは、これからのまちづくりにおいて無駄ではなく、プラスにもつながったと自負しております。

また、町行政の推進においては欠くことのできない貴重な存在の土居副町長は、実務的トップマネージメント体制で私を支えていただいただけでなく、これからのまちづくりにおいてもキーパーソンとして、その豊富な経験とたゆまぬ向上と好学の精神で、常に職員をけん引する規範となり、共に難局を乗り越え、夢と希望の持てる将来展望が切り開けることを確信しておりますが、その願いは届かず、誠に残念至極であります。

一方では、松野町発足55周年を記念して、6年振りとな

る町民大運動会を開催し、皆様のご尽力のおかげで、世代を超えた交流と団結に感動し、「森の国まつり」の良さである「つながり」を再確認することができました。

国では新たな政権下で、地域主権改革を主流とする大きな流れにより、地方公共団体、特に住民の皆様にとって最前線となる基礎自治体の市町村は、今まさに大海へ漕ぎ出さんとする時です。

県では中村時広知事のもと新たな県政がスタートし、これまでの県都松山市政での経験により、愛媛県全体での発展はもとより、現場となる県内市町へも波及されることを大きく期待する年です。

本町におきましても、平成20年度から3年間、総事業費27億円（内松野町7.5億円）を投じて鬼北町と共に取り組んできた「鬼北地域情報通信基盤整備事業」による光回線網の整備は、全国的なデジタル対応によって機器の調達が困難であった時期もあり、大変お待たせをしましたが、4月の本格運用に向けて、仕上げてまいります。

本事業の実施においては、優良財源を確保できたことにより将来にわたる町の負担も見通しは明るく、財政全般において、一昨年度から実質単年度収支は黒字へと好転

し、財政調整基金も積み増ししており、引き続き健全財政が維持できる見込みです。

町議会におかれましても、2月20日に議員選挙を控え、今選挙から定数7となるなど、新たな門出を迎えられようとしております。

本年、特に力を入れていきたいことがあります。

その一は、少子高齢社会に対応し、幸せの源泉である命と健康を守る地域医療と保健福祉体制づくりです。

その二は、将来を担う子どもたちの健やかな育成と子育て支援策を充実させ、子どもを産み、育てやすい環境を作ることです。

その三は、基幹産業の農林業を中心に、土づくりを基盤とした特産作目の生産、付加価値化と、農業支援体制の強化による森の国のブランド戦略と6次産業化への挑戦です。

今年の干支であるウサギのように、今一度耳を大きく立て、皆様からのいろいろな声、小さな声も聞き漏らさぬよう心掛け、飛躍発展できる年とすべく、職員一丸となりチーム力と地域力を結集して取り組む所存です。

皆様のご理解とご協力を節にお願ひ申し上げますとともに、平成23年が良い一年となりますことを心からお祈り申し上げます。